

知求会ニュース

2015年5月

第54号

◎ 博士前期課程、入学おめでとうございます！

2015年4月6日(月曜日)午後3時から国際学部大会議室にて、2015年度オリエンテーションが開催されました。学長からの新入生へのメッセージは宇都宮大学 HP (アドレスは以下参照)に、掲載されています。

(<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/2015/04/002202.php>)

今年度の入学者は、国際社会研究専攻の第17期生 王 曉蕾さん、鈴木大史さん、霍 達さん、谷津哲夫さん、楊 渠さんの5名と国際文化研究専攻の第17期生 石川由宇さん、黄 曉萌さん、今野善伸さん、趙 王寧娜さん、張 徽さん、張 心宿さん、鄭 全嬌さん、羅 霄さん、劉 晶洋さんの9名、そして、国際交流研究専攻の第12期生 ANKOUSSOU MPIGA SILVA ALEEXIA さん、于 慧さん、VARGAS, VILLALOBOS RONY, JOSE さん、王 瀟さん、韓 雯婷さん、佐藤有里恵さん、外村佳代子さん、NAKCHAVEE NATHIRA さん、賓 帝亜さん、柳田 文さん、李 園さん、梁 鎮輝さん、林 佳儒さんの13名で、計27名でした。

◎ 博士後期課程、入学おめでとうございます！

今春宇都宮大学大学院 国際学研究科博士後期課程に入学した竹上瑞穂さん、THAN THIMY BINH さん、鄭 春美さん(国際交流研究専攻・第9期生)、長田 元(国際社会学科・第5期生)さん、そして、星野千恵子さん進学おめでとうございます。今後の研究成果に期待したいと思います。(博士録32その1と知求会ニュース第55号博士録32その2を参照)

◎ 掲載記事紹介

1. 毎日新聞 朝刊栃木版 (平成26年8月10日発行) 26面に、見つめる平和一戦後69年に③コーナーにおいて、「世界の紛争まず知って」と題して「危険を実感する想像力を」の内容で、栗原俊輔先生の記事が掲載されました。
2. 下野新聞 朝刊 (平成26年9月20日発行) 5面に、指定廃棄物の行方「国は真摯に対応を」の内容で、中村祐司先生の記事が掲載されました。
3. 下野新聞 朝刊 (平成27年2月4日発行) 3面に、「「力」より多様性理解を」と題して、「テロ背景に植民地、差別」の内容で田口卓臣先生の記事が掲載されました。
4. 東京新聞 朝刊栃木版 (平成27年3月3日発行) 24面に、「原発避難 苦しみ語り継ぐ」と題して、「事故から4年 県内7人の証言集完成」「編集協力の学生ら 宇都宮大で報告会「犠牲の上の豊かな暮らしに疑問」」の内容で、ブラボ コハツ ホセ ラウルさん(国際交流研究専攻・第11期生)らの記事が掲載されました。

5. 朝日新聞 朝刊地域 (平成 27 年 3 月 3 日発行) 29 面に、「臆せずに数値目標を」と題して、**中村祐司**先生の記事が掲載されました。
6. 東京新聞 朝刊 (平成 27 年 4 月 13 日発行) 12 面に、「声なき声今も」と題して「住民票は福島に 1 票託せぬ避難者多数」「賠償、国支援見通せず 地域に感謝も複雑」の内容で、**清水奈名子**先生の記事が掲載されました。

◎ 国際学部だより

1. 北海道新聞 夕刊(平成 25 年 12 月 5 日発行) 6 面に、「「夕張は何を語るか」を刊行して」と題して、「生き抜く知恵歴史から」の内容で**田巻松雄**先生の記事が掲載されました。
2. 蛍雪時代 (平成 26 年 12 月・旺文社発行) 付録 17~19 頁に、学部長インタビュー「国際学部の魅力って何？」の中で、「地球規模でものごとを考える 「他者への共感力豊かな国際人」になろう」の内容で**田巻松雄**先生のコメントが掲載されました。
3. 読書人 (平成 27 年 1 月 23 日発行) に、「世界を見るための 38 講」の書評として、「未来へつながる証言集 グローバルとローカルをめぐって」の内容で掲載されました。
4. 下野新聞 朝刊 (平成 27 年 3 月 3 日発行) 1 面に、とちぎ大震災 4 年「避難者の証言次世代へ」と題して、**清水奈名子**先生と**佐藤春菜**さん(国際学部・1 年生)のコメントが掲載されました。
5. 毎日新聞 朝刊 (平成 27 年 3 月 3 日発行) 27 面に、「避難者証言集が完成」と題して「心の復興につながれば」の内容で、**福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト(FSP)**の記事と**本間茉莉奈**さん(国際学部・4 年生)のコメントが掲載されました。
6. UU now36 号 (平成 27 年 4 月 20 日発行) 2-4 面に、特集「石田朋靖新学長インタビュー」の中で、**菰澤琴音**さん(国際学部・2 年生)らの記事が掲載されました。
(<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/interviewit.pdf>)
7. UU now36 号 (平成 27 年 4 月 20 日発行) 7 面に、「ハラル研究会」について顧問の**友松篤信**先生の記事が掲載されました。
(<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/info/uunow/36/6-7.pdf>)
8. UU now36 号 (平成 27 年 4 月 20 日発行) 8 面に、「OB.OG.INTERVIEW」コーナーで、「物流の最前線で奮闘中です！ーグローバルな物流を目指してー」の内容で**佐々木真美**さん(国際社会学科・第 xx 期生)の記事が掲載されました。
(<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/info/uunow/36/8-9.pdf>)

◎ 宇都宮大学公開講座 (地域連携教育研究センター主催) 有料

1. 韓国語講座 **丁 貴連**先生(コーディネーター)
 - ①ゼロからはじめる韓国語ー韓国語入門ー **崔 寶允**(国際社会研究専攻・第 9 期生)
 - ②すぐに使える韓国語ー韓国語初級ー
 - ③初心者のための韓国語入門コース **金 多希**(国際文化研究専攻・第 8 期生)

ーはじめての韓国語ー

④韓国語初級コース ー楽しく身につく韓国語ー

⑤韓国語中級コース ーもっと話せる韓国語ー

2. 山形県生まれの四人の文学者たち(夏期)(秋期) **小池清治**国際学部名誉教授
作新学院大学客員教授
3. シャーロック・ホームズの世界に遊ぶ **大関清太**工学部名誉教授
高際澄雄国際学部名誉教授 他
神長善次元国際学部客員教授
4. 日本文明の本質
ー日本文明の本質要素とは何かー
5. グリム童話とヴェーザーベルクラント **橋本 孝**国際学部名誉教授
6. 里山で楽しむランブリング **平井雅世**(コーディネーター)
(国際社会研究専攻・第4期生)
7. タイ料理入門 抽選 タイ料理研究家 **泉田スジンダ**先生
詳細は以下のHP をご覧ください。

(http://www.utsunomiya-u.ac.jp/cercc/course_list.html)

◎ 宇都宮大学公開講座 (地域連携教育研究センター主催) 無料

1. 「常識」と「真実」とは合致するのか? ー読売新聞社・宇都宮大学共催公開講座ー
ー「驚き桃の木山椒の木」の学術的成果ー
- 第3回 10月17日(土) メディアに出る中国は本当の姿か? **松金公正**国際学部教授
第5回 12月12日(土) 新聞はどこまで当てになるのか? **清水奈名子**国際学部准教授
森昭雄読売新聞社宇都宮支局長
2. 消費者力アップセミナー ー自立した消費者を目指しましょう!ー
- 第1回 11月5日(木) 「虚と実と」詐欺を学ぶ **杉原弘修**国際学部名誉教授
詳細は以下のHP をご覧ください。

(http://www.utsunomiya-u.ac.jp/cercc/course_list.html)

○刊行案内

1. **澤田哲生**さん(国際文化学科・第3期生)が、2012(平成25)年9月25日に『メルロ＝ポンティと病理の現象学』(人文書院)を刊行しました。現職は富山大学人文学部哲学・人間学コース人間学分野准教授です。(<http://www.jimbunshoin.co.jp/book/b102624.html>)
2. **人見千佐子**さん(国際文化研究専攻・第10期生)が、2015(平成27)年3月20日に『リアルなイーハトーヴ ー宮沢賢治が求めた空間ー』(新典社(新典社選書72))を刊行しました。内容:博士論文を書籍化。東京、浮世絵、ユートピア、四次元の世界など様々な「空間」の切り口から賢治が求めた現実的な創造世界イーハトーヴの構築を考える。2011年の震災と復興のさなか人々が求めた賢治の詩と世界観の理由を見つめる。定価:2,300円+税

3. 国際学部と国際学部附属多文化公共圏センターより3月下旬に、多文化公共圏センター年報第7号198頁が刊行されました。目次を以下に記します。(敬称略)

はじめに **渡邊直樹**

巻頭エッセイ 「シンガポール・ミャンマー・東ティモールの若者と接して」

中村祐司

視察報告「宇都宮大学国際学部国際キャリア実習のためのスリランカ事前調査」

学術交流提携先ペラデニヤ大学訪問視察報告 **重田康博・栗原俊輔**

I 論文

「紅茶を通じた世界とのつながりと日本の消費者

講演会アンケートから見えてきた消費者の意識と可能性 **栗原俊輔**

「栃木県における避難者の損害賠償の現状

－区域・家族構成に焦点を当てて－ **匂坂宏枝・阪本公美子**

「原発震災後の被災者支援を巡る国家と市民社会のあり方に関する考察

－市民社会の役割と課題－ **重田康博**

「18世紀ドイツの公共性考 レッシングとハーバマス」

渡邊直樹

「『雨月物語』『吉備津の釜』に見られる両義性の基盤

－語りが直接的に提示する物語と「磯良」の視覚的印象 **大橋 敦**

「家電3社(パナソニック、ソニー、シャープ)の業績悪化

の要因分析と復活への課題 **岡本義輝**

「描かれた近代以前の女性と嫉妬

－「破られた約束」をてがかりとして－ **三成清香**

II 福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト(FSP)

1 福島乳幼児妊産婦支援プロジェクト(FSP) 2014年度活動報告

2 水俣病関連施設の視察報告－水俣病受難の歴史から福島第一原発事故を考える－

3 福島県から栃木県に避難した方々の証言集作成作業報告 **清水奈名子**

4 甲状腺検診の受験者アンケート(那須塩原市)結果報告(第1報) **清水奈名子**

5 国際開発学会「原発震災から再考する開発・発展のあり方」研究部会

シンポジウム報告 **重田康博**

6 福島被災者に関する新潟記録研究会報告

高橋若菜

7 宇都宮大学男女共同参画室主催・FSP共催シンポジウム

「防災・震災復興と『男女共同参画』－震災から得た教訓は何か－」報告

清水奈名子

8 2014年11月30日国際開発学会企画セッション報告

「原発震災後の人間の安全保障の再検討」 **重田康博・清水奈名子・高橋若菜**

①3.11原発震災と継続する「人間の安全保障」の危機

－栃木県における被害の実態とグローバルな問題意識－ **清水奈名子・匂坂宏枝**

②原発広域避難者の実情把握と生活再建に向けたガバナンス上の課題

ー福島隣県 5 県における広域避難者アンケート調査を題材として 高橋若菜

③原発震災後の被災者支援を巡る国家と市民社会のあり方に関する考察

ー市民社会の役割と課題ー 重田康博

III 活動報告

宇都宮大学 HANDS プロジェクト 2014 年度活動報告

- 1 平成 26 年度宇都宮大学地域連携活動事業 「田中正造とアジア II」
- 2 連続市民講座「多文化共生について考える」VOL.9
「映画『傍-かたわら-3月11日からの旅』伊勢真一 監督作品」
- 3 宇都宮大学生国際連携シンポジウム 2014
「いま、日中関係を考える ～大学生からみた「過去」「現在」「未来」～」
- 4 第 6 回グローバル教育セミナー 「子どもの貧困とグローバル教育」
- 5 かぬま多文化共生講座「はじめの一步」(2011 年-2014 年) 開催報告

IV 関連資料

- 1 センター組織と活動記録
- 2 センター年報発行要綱
- 3 新聞記事

研究室訪問 43 第 9 号から国際学研究科に関係する内外の先生方に寄稿をお願いしたコーナーを設けました。第 43 号は地球文化形成研究講座所属の**出羽尚**先生にお願いしました。

「宇都宮でイギリス文化を研究する」

出羽 尚

イギリス文化論の研究室です。担当している出羽は2014年度に宇都宮大学国際学部に着任し、高際澄雄先生がご担当されていた講座を引き継ぐ形となりました。右も左も（上も下も！）分らず最初の1年が経過し、その間は初年度ということで卒業研究を行う受講生もおりませんでした。しかし、卒業研究の入口となります昨年度の「イギリス文化論演習」から研究室として最初のスタートを切り、本年度は2名の4年生が卒業研究の完成を目指して頑張っております。

イギリス文化と申しまして、この研究室ではその対象範囲を限定していません。所属する各受講生の関心に応じ、扱う研究の対象やテーマは自由に設定することができます。自由に何を選んでも構わない、これは逆に言えば、受講生が自主的な選択をする必要性があることを意味します。とは言え、無為に宇都宮で生活をしているだけでは（そうした人はあまりおられないと望みますが・・・）、イギリス文化について思いを至らせることも難しいかもしれません。実際、イギリスという国の歴史的、社会的影響力の大きさ、あるいは国としての知名度に比して、その文化に対する現代のイメージは極めて限定的である

ように思われます。例えば、紅茶の国など。

そこで、1年生向けの講義「イギリス文化論」では、イギリスの文化を考える上での代表的な事例を紹介することによって、イギリス文化を研究する際の手掛かりを提供することになっています。例えば、言語、文学、哲学、建築、庭園、美術、ファッション、音楽などの事例を扱います。努めているのは、紹介に終わらないことです。つまり各事例の理解を踏まえ、現代の私たちの置かれた文化環境を考える機会を提供することが重要だと考えているのです。例えば、英語の歴史的発展や世界中への伝播という事例を踏まえた上で、現代の日本が置かれた様々な環境の変化（コミュニケーションツールの発展、外国出身者の増加、家族・地域といったコミュニティの変化）が日本語にどのような影響を与えているかといった問題を考えたりします。個々の文化的事象は、それだけが独立して存在しているものではありません。つまり、文化を考察することはそれを取り巻く社会や人を知ることでもあるのです。

2年生向けの講義「英語圏文化論」では、私が勉強の中心テーマとしてきた美術を扱っています。イギリスを中心に、その影響を受けたインド、中国、日本、北米、オセアニアなどの美術を対象としています。美術は簡単に時代と国境を越えることが重要で、イギリスを中心としながらも、広い視野を持って文化を考察する姿勢を身に付けてもらうことが目標です。「イギリス文化論」と同様に、学んだことを自己の問題に引きつけて考察することを求めており、そのために、昨年度は受講生に「美術作品」の制作と発表をしてもらいました。将来的には展示することを目標にできるのではないかと思うほど、刺激的で素晴らしい作品を準備してくれました。

これらの講義を踏まえ、3年生以降の演習では、個別のイギリス文化の事例を取り上げ、文献資料や実物を調査し、より専門的な研究として昇華させることとなります。文化は実際に本物に触れることなくして理解することはできません。受講生の多い講義では難しいのですが、少人数の演習ではこの点を重視し、学外での調査も積極的に行っています。昨年度は聖ヨハネ教会（宇都宮市桜。イギリス国教会の流れをくむ日本聖公会派）、栃木県立美術館、郡山市立美術館（ともにイギリス美術について日本で最も充実したコレクション）、東京芸術大学（ヨーロッパの初期印刷本コレクション）、七ツ洞公園（水戸市。イギリス風景式庭園）などに出かけ、受講生は事前調査や現地での報告を行いました。

文化活動は社会や人への貢献の点で、目に見える直接性・具体性・即効性がはっきりとしないことから、その意義が疑問視されることがあります。しかし、文化活動は、目的や対象が明確で限定的な活動とは異なり、逆に不特定の人に長期的に貢献する可能性を有していると言えるのではないのでしょうか。だからこそ私たちは、古代の賢者の言葉から行動の指針を得ることができるし、異国の食事を囲んだ語りから明日への希望を見出すこともできるのです（宇都宮にもイギリス料理店あります！）。大袈裟でしょうか？

こうした無限の可能性を有する文化を研究することで身に付く知的体力は、教育、文化行政など、直接的な関係を持つキャリアを目指す場合はもちろん、多様な価値観が混在す

るビジネスの世界で活躍する際にも、文字通り長期的に有効なスキルとして重要になるでしょう。そうした知的体力を備えて活躍する人材の育成に努めていきたいと考えています。

(2015年04月19日原稿受理)

博士録 32 その1 第22号から今後の博士誕生を鑑み、新コーナーを設けました。第32回目には新入生にお願いしました。

- ①氏名：竹上瑞穂 (TAKEGAMI Mizuho)
- ②出身大学院：群馬大学大学院 社会情報学研究科 修士課程
- ③専門：日本語教育
- ④指導教官：鎌田三千子准教授
- ⑤趣味：読書
- ⑥研究テーマ：地域日本語教室における日本語習得支援に関する研究
- ⑦自己紹介：

鎌田研究室に所属しています。竹上と申します。よろしくお願ひいたします。幼少より海外に行く機会が多く、異文化や様々な国籍の人との交流することに繋がりました。その経験が今の私に繋がったと思っています。群馬大学大学院に修士課程として在籍していました。主に地域における日本語教育について興味関心があり、研究をしています。

地域在住の外国人生活者に向けた日本語教室、地域日本語教室を対象として、彼らの日本語習得の状況や日本語習得の支援策に重きを置いています。

博士後期課程においては外国人労働者に対する日本語習得支援と、日本語の自然習得上の困難点を明らかにし、地域日本語教室における日本語習得支援の具体的方法論を解明したいと考えています。

また、現在は群馬県にて日本語教室のスタッフとして、学習者の日本語習得のサポート活動を行っています。

未熟ではございますが、皆様どうぞよろしくお願ひいたします。

(2015年04月20日原稿受理)

- ①氏名：タン テイ ミ ビン (THAN THI MY BINH)

- ④指導教官：吉田一彦教授

次号掲載予定

- ①氏名：鄭 春美 (ZHENG Chunmei)

- ②出身大学院：宇都宮大学大学院 国際学研究科 博士前期課程

- ③専門：国際交流

④指導教官：田巻松雄教授

⑤趣味：ポケモン、ビーズステッチ、バレーボール、バドミントン

⑥研究テーマ：高学歴中国朝鮮族のトランスナショナルな移動の研究—社会適応性と送り出し社会の変容

⑦自己紹介：

初めまして。鄭春美（テイシュンビ）と申します。

私は、中国少数民族の朝鮮族でありながら、出稼ぎ家庭で育った留守児童の経験を有し、個人的経験と極めて多くの朝鮮族が韓国への出稼ぎ問題を前にしたことが、強烈な問題関心の原点となっております。修士論文は「韓国で働く大学卒の中国朝鮮族の実態と意識—アンケート調査結果をベースに」を提出しました。グローバル化時代の国際人口移動は、受け入れ社会の韓国だけではなく、送り出す側の中国社会にも様々な影響を及びし、この大きな課題に向けて研究を続けたい気持ちが強く、博士後期課程では「高学歴中国朝鮮族のトランスナショナルな移動の研究—社会適応性と送り出し社会の変容」のテーマで研究を積み重ねていくことを決意しました。

修士論文では、大学卒朝鮮族の出稼ぎという新しい現象に注目し、国際臨地研究という外国の研究機関（高麗大学校）及び団体（在韓青年連合会）等においてフィールドワークを実施し、かれらを取り巻く状況や直面する課題、家族・朝鮮族社会の現状や今後に対するかれらの意識を明らかにしようと思いました。博士後期も研究に対する真摯な態度、粘り強く作業していく力と丁寧なまとめ方を合わせて、一人の研究者として、日中韓三カ国との国際交流、相互理解のための架け橋の役目を果たすことができるよう力を尽くしたいと思っております。宜しくお願い致します。

（2015年04月17日原稿受理）

①氏名：長田 元(NAGATA Gen)

④指導教官：磯谷玲教授

個人の申し出でにより未掲載となります。

①氏名：星野千恵子(HOSHINO Chieko)

②出身大学院：慶應義塾大学大学院 社会学研究科 修士課程

③専門：教育心理学(修士) 教育社会学(学部)

④指導教官：中村祐司教授

⑤趣味：ピアノ、合唱

⑥研究テーマ：小規模特認校をめぐる政策・制度・運営の研究

⑦自己紹介：

私は現在小山市在住ですが、結婚後横浜に住んでいた時期に慶應義塾大学の通信教育課程に入学しました。子育て、介護、仕事と学業を両立しつつ、「慶應母親学生会」の会長

として大学と連携して夏期スクーリング時の大学内での保育室運営等の活動に携わり、母親学生達と切磋琢磨してきたことが、更に大学院で研究する上で大きな糧となりました。修士課程では、国内外の心理文献精読と、教員と生徒の心理面についての大規模調査、統計分析に焦点化して研究してきました。今後はこれまでの研究で明らかになった知見を基にして、栃木の「小規模特認校」をめぐる行政、地域等の連携の在り方をより広く多様な視点から追究していきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。

(2015年04月13日原稿受理)

知究人 26 第9号から特に、国際学部出身者で他大学院へ進学された方に、寄稿をお願いしたコーナー(ちきゅうびと)を設けました。今回は、ライマン研究室 OG の岩村恵さんをお願いしました。

「フィリピンでの居場所を探して」

岩村 恵

フィリピン大学大学院フィリピン研究修士課程 (University of the Philippines Diliman, Master of Arts Philippine studies) 留学中の岩村恵です。

わたしは特にフィリピンの文化や社会について興味があり、Philippine society and culture, The Philippines in Asia and the Pacific, Special Topic in Philippine Socio – Cultural Studies: Religion in Philippine, Filipino identity などの授業を履修しました。週に1回ずつ授業があり、午後5時～8時までの3時間の授業です。先生によっては休憩を挟みますが、基本的に3時間行きます。どの授業も事前に指定された文献を予習してきた上、毎回クラスメイトが順番でプレゼンテーションをします。その後、内容について議論するという流れで行います。レポートの宿題が出ることもありますし、グループワークをすることもあります。どの授業も最初はクラスメイト達が積極的に議論に参加し、どんどん発言していく様子に圧倒されてしまいましたが、徐々に慣れてきました。

12月にはフィリピン大学毎年恒例の行事であるランタンパレードに参加しました。ランタンパレードとは、各学部がランタンを作って大学内を夜にパレードするというものです。わたしの所属する学部では民族衣装を着てパレードに参加するように言われたので、わたしは浴衣を着て参加しました。他のクラスメイトはフィリピンの民族衣装はもちろん、インドやマレーシアなどの民族衣装を着て参加していました。大学内を数時間かけて歩くのですが、とても大きなキャンパスなので距離にして2.2キロ程あります。大学内のすべての学部がパレードをするので大勢の人が参加しますし、とても有名な行事なので大手テレビ局も取材に来ていましたし、たくさんのお客さんが見に来ていました。パレードで大学内を歩いている途中にお客さんから写真を撮られたり、一緒に写真を撮ってもいいですか？と言われていたりしてとても恥ずかしかったのですが、なかなか普段ではできない経験をすることができました。

専攻研究はフィリピン国内の日比国際結婚の現状とその子ども (Japanese Filipino

Children) の自我に興味があるので関連する論文を読んだり、時間を見つけてはインタビューをしています。フィリピン国内の国際結婚は全体の結婚者数のうち 2.63%であり (2000 年の統計) 91%がフィリピン人女性と先進国出身外国人男性です。(Joseph Ryan Indon, 2008, *State Politics and Practices around Transnational Marriages in the Philippines*) そのほとんどが外国人夫の出身国またはそれ以外の国に生活基盤を置いていると考えられます。日比国際結婚の場合、日本人女性とフィリピン人男性のカップルは非常に少なく、ほとんどがフィリピン人女性と日本人男性のカップルであると考えられます。フィリピンは国際結婚に保守的な国であり、国際結婚で国外に送り出す側であって受け入れる側での前提で法整備されていないのです。ある程度の所得がないとフィリピンでの国際結婚は難しいと考えられます。フィリピン国内で外国人妻が永住者として生活するには外国人登録をし、外国人特有の税金と毎年移民局に出頭要請が必要で、ビザの申請も弁護士を通すほど複雑です。私がインタビューをさせていただいたフィリピン人夫をもつ日本人女性の方は、25 年近くこちらにお住まいですが、旦那さんが弁護士であり、現在は主婦をされています。フィリピンでも裕福な家庭で、学歴も高いと言えます。所得が高いほど国籍に関しての知識を得やすく、また子どもの二重国籍も保有しやすいのではないかと思います。わたしも二重国籍を保有していますが、法律の知識と英語能力、申請費用と手続きには時間とお金と知識が必要です。逆に日本人男性がフィリピン人女性と結婚している場合はどう違うのか、**Japanese Filipino children** として自我形成に両親の婚姻状況や家庭環境は影響するかななどにも興味があるので、研究を続けていきたいと思います。

(国際学部 国際文化学科 第 16 期卒業生)

(2015 年 04 月 20 日原稿受理)

海外だより 20 第 27 号から国際学研究科、国際学部出身の海外在住者からの寄稿をお願いしたコーナーを設けました。今回は田巻研究室 OG の**肥留川紀子**さんをお願いしました。

「シンガポールの出産、子育て事情」

肥留川 紀子

私は現在、主人の転勤に伴い、シンガポールで生活しております。昨年 7 月に、こちらで娘を出産しました。シンガポールでの出産、子育て事情をレポートいたします。

シンガポールでは、計画無痛分娩での出産が主流です。人口の 7 割を占める中華系の人々は、風水師に出産日や時刻を選んでもらい、計画出産をする人が多いそうです。私も、現地の私立の病院にて計画無痛分娩で出産をしました。担当医師は、明るくフレンドリーなシンガポール人で、リラックスをして毎回の検診を受けることができました。ご主人や子どもと一緒に検診を受ける現地の方も多く、待合室は穏やかな雰囲気でした。日本の友達と話して驚かれたことは、日本では厳しく指導される体重管理がこちらではないことです。また、私の病院では、ダウン症になる可能性を調べる出産前検診を受けることが必須

でした。検診も出産も日本と同レベルの診療を受けることができます。ただ、金額はとも高いです。一番の違いは、出産に対する考え方かもしれません。出産当日、陣痛の痛みを感じてから麻酔を打ちたいと伝えたところ、「痛みを我慢するなんて意味が分からない」と看護師から言われました。また、胎児がなかなか出てこなかったのも、帝王切開になる場所だったと出産後に言われました。シンガポールでは、母体や胎児への影響を考慮して、日本より早いタイミングで帝王切開に切り替えるそうです。自然分娩を重んじる日本との価値観の違いを感じました。

出産後には、一か月間新生児や母親の世話をするお手伝いさんを雇いました。働いてくれない、気が強くて喧嘩が絶えないなどトラブルが続き、3人の方を雇用しました。3人目のお手伝いさんは、今では親戚のおばさんのような存在です。こちらでは、住み込みや通いで、家事や育児のお手伝いさんを雇う家庭が多いです。気軽にサポートをお願いできるのは、とてもありがたい環境です。しかし、お手伝いさんとの関係の築き方など、雇用主の資質も問われるという難しさを学びました。

シンガポールは、赤ちゃんに優しい人が多く、とても子育てがしやすいです。公共機関では必ず席を譲ってもらえますし、「何か月？女の子？」などといつも話しかけられます。レストランやカフェに娘を連れて行くこともできますし、泣いても周りの人があやしてくれたりします。娘と一緒にいると、いつも周りの方から優しい眼差しを向けられるので、子どもを産むことは幸せなことだなあと感じます。娘も人見知りをせずについていつもニコニコしています。娘のおかげで、現地の方の考え方や習慣をより深く知ることができています。

(国際学研究科 国際社会研究専攻 第2期修了生)

(2015年04月20日原稿受理)

海外留学今昔 14 第35号から国際学部出身者および在学者を中心とした海外留学体験の寄稿をお願いしたコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**海外留学経験者および海外留学中の在学者の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

学生サロン 10 知求会ニュース第41号より現役学部生によるコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**現役学部生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。今回は予定の入稿者から連絡がありませんでしたので、次号以降に掲載します。

キャリア指南 12 現役学部生に向けた企画として、宇都宮大学全学部から国際機関をはじめ、NGO・NPOや企業などで活躍する先輩方に執筆していただくコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**キャリア指南にふさわしい卒業生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

フォーラム 2015年の皐月を迎えて、皆様忙しいことと思います。(原稿集めに苦勞しています。)今回は松金研究室OGの**賈文瑾**さんにお願ひしました。

「夢を諦めず、夢に近づける」

賈文瑾

■はじめの一步

宇都宮市を離れて、すでに4年間も経ちました。小学生の頃から、日本のアニメやゲームが大好きで、「大人になったら日本に行く」という思いをずっと抱えてきました。そして、大学卒業したら、新撰組のゆかりの地として、宇都宮というまちに所在する宇都宮大学を選びました。自分にとって、宇都宮大学は夢へ歩みだした、初めての一步です。

もともと、アニメ・ゲーム業界に入るため、専門学校に行きたかったけど、当時家の事情もあって大学院にしましたが。ちゃんとアニメ・ゲームについての研究も熱心に指導してくださった先生方のおかげで、別の角度から自分が憧れた業界を見ることができたのは、とてもありがたいことです。

当時ではかなり新しい研究テーマだったけど、先生方のおかげで自分の趣味を楽しく深掘りできて、素敵な思い出になりました。

■夢をあきらめず

就活を決めたのはすごく突然な出来事でした。

当時は大変迷っていたので、学校のキャリア支援センターの先生に相談に行きました。そうしたら、「趣味に合っている仕事であればよいのではないか？」と、自分を悟らせた一言をいただきました。さらに、自分と合いそうな会社を進めてくださって、もちろん面接対策と履歴書チェックもしっかりやってくださいました。おかげで、当時一番入りたいと思う面白法人カヤックに無事入社できました。

その後、「趣味に合っている仕事」というポリシーをしっかり持って、2回も転職しましたが、どの職場でも、自分が好きな仕事ことができました。しかも、昔から憧れていた有名なアナウンサーさん、声優さんたちと何回も一緒に現場に踏み入れたことがやっとなりました。

そして現在は、株式会社オルトプラスで、プランナーとして働いています。仕事の内容を言うと、サービスやゲームの企画を作ることが中心になっています。

会社の仕事以外、今までの仕事のご縁で、個人として声優さんの海外イベント公演の台本制作などに力を添えています。今考えてみると、自分の夢は確実に実現されていると思います。

■皆さんへのメッセージ

自分にとって、好きな研究テーマに集中できて、学校のイベントもたっぷり楽しんできま

した。当時研究の内容はもちろん、研究方法なども今の仕事にとっても役に立っています。今はスムーズに仕事ができ、作った資料も社内で評価されるのが、大学院時代積み上げた「資産」のおかげです。

また自分にとって最後の学園生活ですが、社会人になる直前の最高に楽しい日々でもあります。

みなさんもぜひ、宇都宮大学での研究、学園生活を楽しんでいただければと思います。

(国際学研究科 国際交流研究専攻 第6期生)

(2015年04月17日原稿受理)

EU支部だより

第38号からイタリア在住の**松原真実子**さんによる知求会 EU支部だより「Newsreel World」を発行してきました。今回の14号の内容は、1 イタリア ミラノ万博のテーマは「地球に食料を、生命にエネルギーを」 2 EU支部だより—大阪万博—です。配信方法は、画像が掲載されているために別便で配信します。ファイル容量が大きいことで、ニュースレターが受信できない場合にはその状況をお知らせください。

編集者のひとりごと

●この春は気象が少しおかしく感じられました。4月8日(水)には春爛漫のさなかに積雪がありました。季節外れの雪は老体にとって寒さが堪えました。しかしながら、せっかくの機会なので近所の桜の名所・赤門の慈光寺と二荒山神社へ、カメラを片手に散策へ出かけました。この散策はゆったりとした時間の流れを感じたひと時でした。

●4月前半は栃木県議会議員選挙(投票率44.14%、1999年57.83%)、後半は宇都宮市議会議員選挙(投票率40.73%、2003年50.42%)が行われました。投票率は大きくポイント数を落とし、諦めムードがあり低調でした。国際学部卒業生の**松沢章**さん(国際社会学科・第7期生)が出馬しました。結果は1,770票を獲得しましたが今一步当選に届きませんでした。なお、現職議員が3名落選する波乱の戦況でした。国際学部の考え方である「多文化共生」の思想を実践に生かすべく、次回の挑戦に期待したいです。

●平成28年4月1日に、宇都宮大学新学部「地域デザイン科学部」の開設予定が大学HPに掲載されました。

詳細は <http://www.utsunomiya-u.ac.jp/important/2015/04/002191.php> をご覧ください。

編集後記：2010年4月26日から **知求会ニュースのバックナンバー**は **国際学部同窓会 HP** (<http://www.afis.jp>) で見られるようになっています。

同窓会会員の皆様へのお願い：**住所、勤務先および携帯電話番号、メールアドレスの変更の際は事務局へメールして下さい。** chikyukai@freeml.com